

自然再生プロジェクト活動レポート（令和4年度～5年度）
令和5年3月 「天然水の森 丹沢」～森林づくり最前線～

サントリーホールディングス株式会社と神奈川県が協働で実施している「天然水の森 丹沢」自然再生プロジェクト 令和4年度～5年度は、人工林の間伐、植生保護柵の補修、溪畔林植栽地の下草刈りなどの森林整備のほか、植生や動物のモニタリング調査を行いましたので、その様子を皆様にご報告させていただきます。

大きく成長して暗くなってしまった溪流沿いの人工林2箇所を間伐しました。明るくなった林内に、フサザクラなどの広葉樹が生育することを期待しています。伐採したスギやヒノキの丸太279本は、県内の木材市場まで運び出して有効利用しています。建築資材などに使われることで二酸化炭素を長期間固定してくれます。



間伐施工



間伐材搬出

自然に生えてくる広葉樹の稚樹をシカの採食から守り育てるため、設置後10年以上経過し破損していた植生保護柵を補修しました。



植生保護柵補修前



植生保護柵補修後

溪流沿いに植栽した広葉樹（シオジ・カツラ・カエデ他）が被圧されないように下草刈りを行いました。植栽後4年経過した若木たちは、元気に育っています。



シオジ（下草刈り前）



広葉樹植栽地（下草刈り後）

モニタリング調査では、設置後5年以上経過した植生保護柵の中で、草木の順調な生育がみられたほか、野ウサギや野ネズミなどの活動痕跡も確認できました。

また、モミの自然林に隣接する人工林の林床では、モミの実生（みしょう：種子から発芽したもの）が見られますが、それ以上に成長した幼木はありませんでした。モミが大きく成長するためには、光環境を整えながらシカの採食から守っていく必要があります。



野ウサギ



モミの実生